

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470300506
法人名	有限会社 ホワイト介護
事業所名	グループホーム 北さんち
所在地 (電話番号)	鈴鹿市中旭ヶ丘4丁目6番8号 (電話) 059-380-1234
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 19 日(月)

【情報提供票より】 (H19年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 1 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 1,000,000 円 <small>(連帯保証人を立てる場合50万)</small>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 87.6 歳	最低 71 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院 鈴鹿厚生病院 ホワイト歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

白子中学校に隣接し、元気な生徒の姿をいつもみることができ、又市街への買物にも便利な住宅地に立地し、デイサービス、居宅支援及び訪問介護事業所を併設している。2001年創設来、認知症高齢者の全人間的復権を図ることを事業目的とし、あらゆる拘束からの開放と人格的自律を支援し、自己決定権に基づく生活を保障して新しい家族関係を構築できるようにすることを運営方針にして現在に至っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長以下職員は評価の意義を理解しており昨年の改善項目(ヒアリハットの記録や介護計画見直し期間短縮等)に携わっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長(管理者)は「北さんちだより」で家族や職員に評価制度の意義を説明され取り組みを表明されている。今回の自己評価表は掲示もされ、ミーティングで話し合われている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>本年6月に第1回運営推進会議を開催している。民生委員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族代表、認知症有識者、職員代表、施設長をメンバーに会議の趣旨説明、意見交換を行なっているが、以降開催されていない。地域住民との交流促進面からも地域自治会長の参加と2ヵ月毎の定例開催の継続を期待する。また、今回の評価結果についても議題に取り上げ公開されることが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に「ご意見箱」を設置しているほか、来所時や手紙にて気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。寄せられた意見苦情は職員の意見及び処置結果を含め施設長(管理者)が受け止め運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方や隣接する中学校の先生方や生徒たちと気軽に挨拶している。また、地域の防災訓練に職員が参加したこともあるが、自治会の他行事や祭り等への参画あるいは事業所行事への参加呼びかけ等交流は今後の課題である。近隣の方々への事業所の紹介や行事への参加案内(事業所便りの回覧等)及び運営推進会議を通じて防災避難訓練への協力要請や自治会行事への参加等交流を図られることを期待する。</p>

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あらゆる拘束からの開放を基本方針に、自己決定に基づいた生活を保障して、新しい家族関係を構築できるように支援することを理念の柱にしている。また、昨年度の法改正に伴う理念の見直しについては職員と共に検討され、支援の中で取り組みを意識する事で合意している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をかみくだいた指針「利用者本位って本当に大切なんだね」「自己決定できるってすばらしいことなんだね」を玄関に掲げ来所者にも周知している。また、職員は日々のミーティング等機会あるごとに話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方や隣接する中学校の先生方や生徒たちと気軽に挨拶している。また、地域の防災訓練に職員が参加したこともあるが、自治会の他行事や祭り等への参画あるいは事業所行事への参加呼びかけ等交流は今後の課題である。	○	近隣の方々への事業所の紹介や行事への参加案内(事業所便りの回覧等)及び運営推進会議等を通じて自治会行事への参加等交流を図られることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長(管理者)以下職員は評価の意義を理解しており昨年の改善項目(ヒアリハットの記録や介護計画見直し期間短縮等)に携わっている。また、自己評価表は掲示もされ、ミーティングで話し合われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年6月に第1回運営推進会議を開催している。民生委員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族代表、認知症有識者、職員代表、施設長(管理者)をメンバーに会議の趣旨説明、意見交換を行なっているが、以降開催されていない。	○	地域住民との交流促進面からも地域自治会長の参加と2ヵ月毎の定例開催の継続を期待する。また、今回の評価結果についても議題に取り上げ公開されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの介護相談員の来所時(毎月)の意見交換や地域包括支援センターの職員との利用状況の連絡等連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者ごとの暮らしぶりや健康状態を近況報告書として郵送又は来所時に手渡している。職員の紹介は「たより」に掲載したりしている。金銭管理は毎月の領収書を送付すると共に「おこづかい帳」を来所時に提示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置しているほか、来所時や手紙にて気さくに意見や要望を言ってもらえるよう気配りしている。寄せられた意見苦情は職員の意見及び処置結果を含め施設長(管理者)が受け止め事業運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は働き甲斐のある職場作りに配慮し、職員の定着を心掛けていると共に、職員が利用者全員と馴染みの関係を保つよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育計画はないが、適宜県下グループホーム連絡協議会の研修会に参加しているほか、自己啓発で資格取得のための研修に休日に受講している方もいる。	○	法人内外を問わず職員の階層別教育計画を立案実行されることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鈴鹿、亀山地区の小規模事業所の作品展に参画したり県下グループホーム連絡協議会勉強会に参加するほか、総施設長が市の地域密着型サービス推進委員として活動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人が見学され、安心感を持って利用できる雰囲気理解してもらっている。場合によっては数日のお試し利用の上、入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの生活の知恵(例えば調理での大根葉やほうれん草の芯の活用や衣類の繕いのノウハウ)を教わったり、本人の負担とならない程度の手伝いをしてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をよく聴きながら特技(書き物、ピアノ演奏、畑仕事等)や希望(外出、入浴、テレビ)を聞き入れた対応をしている。また、困難な場合は家族等から聴取し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、主治医等からの意見並びにミニカンファレンスでまとめられた職員の意見をもとに検討し作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	以前は6ヶ月ごとの見直しであったが、昨年からは3ヶ月ごとの見直しを原則としている。また、利用者の状態の変化に応じては随時見直し変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、職員は通院や一時帰宅、ショッピング、美容室等への送迎を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とは別に利用前からのかかりつけ医での診療(検診、定期健康診断)を受けられるようにしている。受診や通院の付添は職員がほとんどだが、必要な場合は家族に同行を依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に本人、家族と終末期や重度化した場合の要望や事業所でできること、できないこと等対応を話し合っている。また、状態に変化があるごとに、かかりつけ医を含めて対処方針や支援について話し合っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々のミーティングで態度、言葉かけ、外来者への対応等について話し合われている。個人記録等書類は収納場所を定めて取扱いには気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮し、その日その時々々の本人の気持ちを尊重し出来る限り希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食への関心や楽しみをもってもらよう夕食の献立は利用者の希望を聞いて決め、買出し、準備、片付け等利用者と共に行なっている。また、職員は同じテーブルを囲んで和やかに食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに声かけし希望の時間の入浴を支援できる体制はあるが、ほとんどの方が午後3時頃から夕方にかけて入浴されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、洗濯物たたみ、掃除、食器拭き等職員と共に行なったり、畑仕事、書き物、ピアノ演奏等楽しみ事や散歩に出掛けたり支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々声かけをして、庭の菜園や近隣への散歩、買物に出掛けている。時には車でショッピングなどに出掛けたりもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び職員は拘束のない介助を目指しており、鍵かけは管理面での拘束と認識している。居室は内鍵で、また、玄関の出入り口は日中は無施錠である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近年事業所として防災避難訓練は実施されていない。また、地域住民との協力体制についても運営推進会議等を通じ整備しようとしているが今後の課題となっている。	○	災害時の通報連絡体制、初期対応、避難誘導手順、避難場所等々防災避難マニュアル等の確認整備、避難訓練の実施並びに地域住民との連携について早急に検討実施されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	蓄積されたレシピを元にバランスのとれた献立をしている。一人ひとりの食事摂取量はバイタルチェック表に記録し、水分量も不足しないよう見守っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は天井が吹き抜けで薪暖炉がある。また、生け花も飾られ、壁にはレクリエーション時の寛いだ写真や色紙手作りカレンダーが貼られ安らぎのある雰囲気である。2階の居室前廊下天井は明かり窓が設けられほどよい明るさである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品はすべて利用者の持ち込みになっており、カーテン、カーペット等好みのものが、また、ソファや箆笥や棚など使い慣れたもの、あるいはご主人の遺影や家族の写真、人形等飾られ、一人ひとりに合わせた部屋作りがされている。		